

第2回国際カンカシンポ開催

肝保護作用、血圧降下作用、抗酸化作用、化粧品への用途展開…など最新研究全8題

国際カンカ研究会は先月27日、近畿大学で「第2回国際“カンカ”シンポジウム」を開催した。2回目となる同シンポジウムには、カンカ研究に携わる日中の大学、(株)栄進商事など関係企業の研究者が一堂に集結。会場には関係者約200人が集まった。行われた演題は全8題。

同シンポジウム実行委員長で近畿大学薬学部・薬学総合研究所教授の村岡修氏はカンカニクジュヨウの基本情報とともに

に、肝障害抑制活性の作用機序と活性成分について検討した結果を発表。

また大阪樟蔭女子大学大学院・人間科学研究科教授の北尾悟氏は「カンカニクジュヨウ抽出物の抗酸化能評価」と題して登壇。カンカニクジュヨウ抽出物の高いラジカル捕捉能、抗酸化能について報告した。カンカ栽培基地のある中国新疆からは、新疆中薬民族薬研究所所長の賈曉光氏が来日。高塩分飼料飼育ラットを

用いて、カンカニクジュヨウの血圧・赤血球膜流動性および血液粘度に及ぼす影響について検討したところ、カンカニクジュヨウ抽出物を投与した群では、ラットの血圧が有意に正常化した。赤血球膜流動性については増加を確認、血液粘度については低下を確認したとした。

食品としての機能性のほか、化粧品分野での最新研究も発表された。(株)成和化成の渡邊諒子氏は、カンカニクジュヨウエキスと主要成分アクテオシド、エキナコシド、イソアクテオシドについて化粧

品分野での有効性と製剤化方法を検討。その結果、カンカエキス末にメラニン生成抑制作用を確認し化粧品への応用が期待されることを発表した。同時に化粧水とコンディショナーの処方も紹介した。特別講演には「微小循環障害に対する丹参の改善効果とそのメカニズム」(北京大学基礎医学院中西医結合教研室教授 幹晶岩氏)、「薬用食品にメタボリックシンドローム予防物質を探る一ローズヒップ、甘茶、茶花一」(京都薬科大学教授 吉川雅之氏)の2題の演題があった。